

## [8] センターの行事

### 8.1. センター主催のシンポジウム

#### 8.1.1. 第21回CEReS国際リモートセンシングシンポジウム

(コーディネータ：ヨサファット)

平成26年8月22日にインドネシアバリ島にて、第21回CEReS国際シンポジウムを兼ねてリモートセンシング用小型衛星国際シンポジウム(SOMIRES2014)を開催しました。このシンポジウムはリモートセンシング用の小型衛星・センサとアプリケーションに焦点をあて、第2回アジア未来会議の自然科学フォーラム「環境リモートセンシング」の一環として同時開催されました。日本からは千葉大学をはじめ、北海道大学、山口大学、インドネシアの大学や航空局、またアメリカや韓国の大学などから専門家を招いて討論し、参加者は約60人ほどにのぼりました。

また、SOMIRES2014は千葉大学小型衛星プログラム(2013年～2016年)のサポートを受けており、このプログラムではGNSS-RO技術(LバンドとKaバンド)を使用した電離層観測用と、オンボード用円偏波合成開口レーダ(SAR)によるグローバル地殻変動観測用の2つの小型衛星の開発を進めています。この様子は、CEReSニュースレター2014年8月号(No.105)でもご紹介しています。プログラムおよびプロシーディングは、下記CEReSウェブサイトをご参照ください。

<http://www.cr.chiba-u.jp/Documents/symposiums/symp2014/SOMIRES2014Proceedings.pdf>



写真 第21回CEReS国際シンポジウの様子

#### 8.1.2. 第22回CEReS国際シンポジウム

(コーディネータ：Josaphat /ヨサファット)

平成26年10月29日～30日の2日にかけて、インドネシアのジョグジャカルタ(Yogyakarta; 英語表記でJogjakarta)のガジャマダ大学(Gadjah Mada)にて第6回インドネシア・日本共同科学シンポジウム(IJSS)が開催され、その特別セッションとして初日に第22回CEReS国際シンポジウムを開催しました。午前のオープニングセレモニーでは、当センターの建石センター長がウェルカムスピーチをされ、午後からは初の海外開催となる第22回CEReS国際シンポジウムが開催されました。インドネシア気象局(BMKG)長官であるAndi Eka Skya博士による講演を皮切りに、計13件のエントリがありました。シン

ポジウムとしては盛況で84名の参加があり、活発な議論がなされました。この様子は、CEReS ニュースレター 2014年10月号 (No.107) でもご紹介しています。



写真 第22回 CEReS 国際シンポジウム終了後の集合写真

### 8.1.3. 第17回 CEReS 環境リモートセンシングシンポジウム (オーガナイザー：CEReS 共同利用研究推進委員会)

平成27年2月20日千葉大学けやき会館において、第17回 CEReS 環境リモートセンシングシンポジウムを開催しました。このシンポジウムは、共同利用研究発表会の位置付けで毎年実施しており、センターが推進している先端リモートセンシングプログラム、情報統合プログラム、衛星利用高度化プログラムに関連した研究発表（口頭19件、ポスター33件）と UAV リモートセンシング研究会主催の発表の平行セッションを実施し、約100名の参加者らが熱心に議論を交わしました。新規に立ち上げた UAV リモートセンシング研



開会の挨拶：建石センター長

究会では、約50名の参加者を得て、12件の講演および実機とシミュレータを囲んだサロンが開催されました。サロンではマルチコプターの技術的課題、運用上の注意点などに関する議論が行われ、マルチコプターを安全に運用し、環境や災害研究のツールとして役立てていくための情報交換が行われました。当日の発表題目等の詳細なプログラム\*は、CEReS ウェブサイト共同利用のページに掲載しておりますので、ご参照ください。後日、これらの成果として、「第17回 CEReS 環境リモートセンシングシンポジウム資料集」を発行する予定です。

(\*プログラム：<http://www.cr.chiba-u.jp/Documents/symposiums/symp2014/RSprogram17-H26.pdf>)



UAVリモートセンシング研究会座長：近藤教授



ポスター研究発表の様子

## 8.2. 環境リモートセンシング研究センター談話会（CEReS のタベ）

不定期で、「CEReS のタベ（CEReS Colloquium）」と名付けたセンターの談話会を行っています。以下はその要旨です。

2014年度 第1回 CEReS のタベ

日時：2014年12月03日（水）17:30－19:00（担当：樋口）

場所：共同棟 102 講義室

講演者：佐藤陽佑 特別研究員、博士（理学）

（理化学研究所 計算科学研究機構 複合系気候科学研究チーム）

講演題目：「広領域・高解像LES（ラージ・エディー・シミュレーション）を用いた層積雲から積雲への遷移過程の再現実験」

要旨：

本研究では高解像・広領域LES（ラージ・エディー・シミュレーション）を用いて、層積雲から積雲への遷移を一つの計算領域で再現し、低層雲の被覆率を決める物理量に関する考察を行った。雲の被覆率が高いときは、個々の積雲の対流間距離が境界層上端での雲の広がりより短く、雲の被覆率が低いときはその反対の状況になっていた。理想的なパーセルモデルでの解析により、雲の広がりには主に地表面のフラックスによって決まり、副次的にエアロゾルの量が影響を及ぼしていた。

本発表では「京」を用いて行った気象気候シミュレーションの実例や、低層雲とリモートセンシングへの応用例についての紹介、および理化学研究所計算科学研究機構にて開発されている数値気象ライブラリSCALEについても紹介。